



ほっとするね
緑の府中

指導室だより

第 53 号

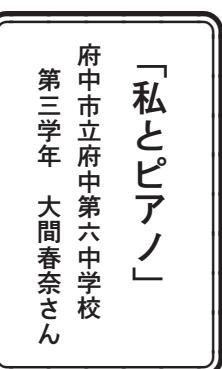
編集・発行 府中市教育委員会学校教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町 2-24
電話 042-335-4063

一人一人が豊かな

人権感覚を磨きましょう

第12回府中市小・中学生の人権作文発表会が、12月16日に府中の森芸術劇場ふるさとホールにて大勢の保護者、市民、関連団体の方が参加して開催された。

「21世紀は、人権の世紀といわれていますが、最近の痛ましい事件を思いますと、人権とは何なのか考えさせられます。府中市では、次代を担う子どもたちに人権についての関心を高めてもらい、人権尊重の大切さを考える機会として人権作文発表会を行っています。今日は、六千点を超える応募作品の中から代表して皆さんに発表していただきますが、人権の尊さなどについて日頃感じていることなどを考えてながら発表してほしいと思います。そして、それを今後の生活に結びつけていってほしいと思います」という挨拶があつた。



「私とピアノ」

府中市立府中第六中学校
第三学年 大間春奈さん

最後に人権作文審査委員会比留間洋子委員長より「今年は、小学生3560点、中学生24

私は、生まれつき右半身にまひがある。早産で生まれてくるときには脳梗塞になり、その後遺症が残っているのだ。全く動か

ない右手でも、楽しくピアノを弾けるようにと、いろいろな工夫をしてくださっている。

しかし、小学校低学年までは、「なぜ友だちと同じような曲が弾けないのだろう」と、右手が何度も練習を投げ出したことが

弾いていたこともある。

そんな私を見て、先生は、知り合いの先生たちと一緒に、障害者にピアノを教えるための研究会を作った。そして、私は、その研究会が主催した障害者だけのピアノコンサートに出演することになった。



そこで私は、自分よりはるかに重い障害のある人たちが、とても楽しそうにピアノを弾いているのを見た。そして、たくさんの人たちとお互いの苦労話をしたりして、何人かの人と親しくなった。

このピアノコンサートを通して、驚いたことが二つある。一つは、障害があってもピアノを弾いている人が、こんなにもたくさんいたということだ。もう一つは、その中の多くの人たちが、ピアノを習いたくても、先生に巡り会えず、独学で弾いている人もいるということだ。

先生は、何度も研究会を開いて、私のようなまひのある人や、知的障害、目や耳の障害、そして、手や足が欠損している人もいるということだ。

先生は、何度も研究会を開いて、私のようなまひのある人や、知的障害、目や耳の障害、そして、手や足が欠損している人などでも健常な人と同じようにピアノを勉強できるようレッスンのしかたなどを発表し合ったり、工夫していることを紹介したりしてくださっている。

当たり前のことだが、ピアノ

の楽譜は、目の見える人が両手で合わせて十本の指で弾くようを作られている。でも私は、右手は親指とひとさし指でやっと弾ける程度。そこで先生は、まず曲を選ぶ時、あまりテンポの速くない曲で、右手に和音が多くない曲を選ぶ。そして、弾けそうにない右手の和音は、大事な音だけひろったり、左手で弾けるようにアレンジしたりする。ペダルは右足で踏めないから、特注の補助のペダルをセットして左足で踏んでいる。このようにいつも先生と相談しながら私だけの楽譜を作つて弾いてきた。

研究会で知り合った人々は、みんなそれぞれの体に合わせた工夫をしている。私と同じ右半身まひで、左手だけで難しい曲を見事に弾く人。車いすに体をベルトで固定しないといけないくらい重度の脳性まひの子は、やっと動く右手の一本指でメロディーを弾いて、お母さんと連弾をしている。左手の指が生まれつき二本の子は、両手合わせて七本の指で、目にもとまらぬ速さで、ショパンの「革命」を弾く。目の見えない人は、誰かに曲を弾いてもらい、それを耳で憶えて弾く。すごく耳がいいんだなと思う。それに集中力もすごい。

このような障害があつてピア

ノを弾いている人のための「ピアノパラリンピック」が、私が小学校六年の時に、横浜で開かれた。日本だけでなく海外からもたくさんの人たちが参加した。私も出演した。一人一人がみんな悩んだり、苦労したり、いろいろ試したりして、それぞれが自分に合つた弾き方を探していく。私は、そんな人たちの演奏を見て、聴いてとても励まされた。

母はいつも私のピアノを聴いて、「この音は春奈にしか出せない」と、言つてくれる。私は今でも、友だちが弾くような速くて難しい曲に憧れる時もあるけれど、前よりも自分のピアノに自信がもてるようになつた。いつも私のことを一生懸命に考えてくださっているピアノの先生に感謝している。

私は、ピアノとかかわってきただことで、どんな障害があつても決してあきらめずに、自分のやりたいことに挑戦すれば、不可能なことはない、と学んだ。



第12回府中市小・中学生の人権作文発表会発表者一覧

発表順	学校名	学年	発表者	題名
1	府中第六中学校	3年	大間春奈	私とピアノ
2	府中第二小学校	5年	野田叡寛	平和への願い
3	府中第五中学校	1年	谷内裕理	私が変わられた時
4	若松小学校	3年	竹井伶佳	じんけんについて
5	府中第九中学校	1年	後藤颯生	「ありがとう」
6	日新小学校	5年	藤本彩	スマイル&フレンド～ずーっと大好き～
7	府中第九小学校	5年	岩木悦子	今の私にできること
8	府中第六中学校	3年	飯谷優梨	高齢者社会で大切なこと
9	府中第六小学校	6年	本村日美樹	心が広いということはすばらしいこと
10	府中第四中学校	2年	藏満里奈子	身近な人権問題
11	府中第二中学校	3年	林拓実	障害者の住みやすい世の中を目指す
12	府中第三中学校	3年	濱野美咲	私の誇り
13	府中第七中学校	1年	長澤樹央	私とスポーツ
14	矢崎小学校	4年	亀岡奨太郎	友達を大切にすること
15	府中第十中学校	2年	太田綾香	笑顔が増える世の中
16	若松小学校	6年	廣瀬里美	出会い
17	浅間中学校	2年	石井沙也香	一秒
18	府中第二中学校	3年	鈴木淑乃	環境問題（地球温暖化）について
19	小柳小学校	6年	藤瀬夕美	幸せについて
20	府中第一中学校	2年	野見山菜穂	ユニバーサルデザインと生活
21	本宿小学校	4年	遠藤季夏	みんなとちがうところ
22	府中第八中学校	3年	樋口裕之	心にできている壁
23	府中第三小学校	4年	石阪優奈	わたしの妹
24	府中第五中学校	3年	スピリアートクララ	心を伝えるコミュニケーション



情報モラル教育を どう進めるか

**府中市立府中第四中学校
校長 丹代 徹**

犯罪といわざるえない行為も起きている。

高度情報化社会といわれる今日、コンピュータやインターネット、携帯電話等の性能や機能は著しく進歩したが、一方で使い手はその機能を十分生かすことが出来ずについる。

しかし、幼い頃からゲームなどに触れているからか、子どもたちの機械を操作する力には驚きを感じるものがある。携帯電話のメールを打つ速さは私たちの数倍速いスピードで打っているのをよく見かけるし、新しいソフトに関する理解力も速い。

子どもたちの情報教育に関する興味関心は強いものがあり、方向を間違うと想像もつかない犯罪などに巻き込まれてしまう恐れがある。現にインターネットや携帯電話でのトラブルも多く、その中に子どもたちが巻き込まれているケースが増えてきている。

中学生の間でも近頃は、相手を誹謗・中傷するようなメールを送信したり、メールで「いじめ」をしているケースもあり、

育成する必要がある。

これらの現状を踏まえ、学校では、情報モラルの重要性を再認識し、家庭や地域、関係機関と連携を図りながら生徒の発達段階や実態に合わせた「情報モラル」に対する取り組みを学校全体で行っていく必要があると感じている。

◆学校現場で教える

「情報モラル教育」

学校現場で教える「情報モラル教育」に関しては、大きく二つに分けることができる。第一には「ルールやマナー」についてである。これは人権、プライバシー、個人情報、肖像権、著作権などについて基本的な社会のルールとマナーを教えることである。第二には、情報社会の「セキュリティ」について教える必要がある。

第一の情報社会におけるルールやマナーについては、各教科、道徳、学級活動、生活指導等を通して次の①②③について指導

①個人情報の扱いやプライバシーに関する事柄、送信した人の責任に関すること。
②コピーによる著作権の侵害、現在社会問題になつており、特に子どもたちに多い着メロに関するもの。
③インターネット上のルール（誹謗・中傷するようなことは禁止）、肖像権、などの基本的な事柄。

第二の「セキュリティ」については、学校情報担当が研修会などを通して教員に指示し、インターネットの使い方と合わせて次の①②の事柄について指導をする。

①コンピュータウイルスについての事柄。
②不正アクセスやネット犯罪について。

特にコンピュータウイルスや不正アクセスに関しては、子どもたちの前で実際に見てみるとできない。逆に子どもたちがゲーム感覚で捉えてしまう怖いものもある、子どもの中にはいる事もあるので十分注意が必要である。

ウイルスを作つてみたいとか不正アクセス等をやつてみたいといふ生徒もいるかもしれない。そこで、指導を間違うと逆効果になる事があるので十分注意が必要である。

学校の授業では、コンピューターでインターネットの学習をする場合には、自分が使用するコンピュータの番号を記入させ、アクセスした項目などを書かせる責任に関する事。

《情報モラル教育をどう進めるか》

II 情報教育の実践

授業における効果的かつ手軽なICT活用法を探る

ICT活用推進委員会

ICT活用推進委員会（委員長・府中第七小学校佐久間修校長・府中第四中学校丹代徹校長）では、目的を「学習指導等におけるPCの効果的な活用に関する研究」として、授業研究を中心に研究に取り組んでいる。

そこで12月6日、府中市立白糸台小学校において外部から講師を招聘し、授業研究並びに研究協議会が行われた。

◆ 研究の考え方

昨年度の研究の反省では、ICT機器で学習に効果的であっても、機器を多用したり、操作が困難で準備に手間がかかったりするため、実際には授業で活用しにくいことが課題としてあげられた。

今回はその反省を踏まえ、日常の授業における効果的かつ手軽なICT活用法の工夫を研究することとした。

3 評価規準

○ニュースを探して伝えることに関心をもち、伝え方や内容を工夫しようとしている。（関心・

そこで、主に教師側のICT



◆ 指導の実際

■ 本時のねらい

○自分の伝えたいことが受け手により分かりやすく伝わるような表現について理解することができる。

■ 指導の展開

- トを行い、画面上で文章校正を行い、白ボードに投影する。文章の推敲や改行など簡単に提示することができる。また、校正前と後の違いも簡単に提示できる。
- パソコンは日本語入力ソフトを使い、画面上で文章校正を行い、白ボードに投影する。文章はコンピュータのすごさである。文が変わってきたことを子どもが実感できた。子どもが積極性を増すことができる。
- プロジェクターが暗かった。窓から離して置く。白黒を反転させるとよい。
- 文字が小さかったが、タイトルバーやタスクバーを黒板の外に出すとともに大きくなる。
- 21世紀の教室としてプロジェクターを天井に固定し、手軽に活用できるようになるとよい。
- 再変換機能を活用した。これはコンピュータのすごさである。
- ・文が変わってきたことを子どもが実感できた。子どもが積極性を増すことができる。
- ・プロジェクト・スクリーンを活用してもよかつた。
- ・マグネット・スクリーンを活用してもよかつた。

■ 講評

ままでの、黒板に直接投影した。・TTのように指導する人とPCで直す人がいると効果的だ。



プロジェクターとパソコンを活用し推敲を行う

4 指導の工夫（分科会提案）

- 資料「ごみの中身」を見て、相手に分かりやすく伝えるためにどう書き直すかを考える。
- 資料「ごみの中身」を見ながら交流を行い、推敲する。
- ・21世紀の教室としてプロジェクターを天井に固定し、手軽に活用できるようになるとよい。
- ・再変換機能を活用した。これはコンピュータのすごさである。
- ・文が変わってきたことを子どもが実感できた。子どもが積極性を増すことができる。
- ・プロジェクト・スクリーンを活用してもよかつた。
- ・マグネット・スクリーンを活用してもよかつた。

◆ 研究協議

○ニュースを探して伝えること

○伝えたいことをどのように伝えるかをグループで協力して考え、形にして発信する。

・白ボードを使う予定だが、文字が波をうつてしまつたが、

「すこやかに

伸びゆく子の育成

**府中市立府中第八小学校
研究主任 須藤 利伸**

1 研究主題について

近年、児童を取り巻く社会環境や生活様式はめまぐるしく変化し、児童の成長に大きな影響を及ぼしていると考えられる。

特に食生活を含む生活様式の変化は、生活習慣の乱れや生活习惯病などの新たな健康課題を生んでいる。本校でもここ数年、朝から体調不良や体のだるさを訴える児童が増えていることが養護教諭の調査などから分かった。

これらのことと踏まえ、平成16年度より、研究主題を「すこやかに（自己の生活に楽しみや生きがいを見付け）伸びゆく（明るく生き生きと成長する）子の育成」とし、児童の健康づくりに取り組むこととした。

本校の実態から、児童が健康づくりを目指すには、児童の生活習慣に重点を置いた研究に取

り組むことが必要であると考えた。本校の教育活動の特色を踏まえ、生活習慣の中でも学校教

育の中で実践していくことでのきる「食」と「運動」に重点を置いて研究を進めていくことを副主題を「～食と運動を通して～」と設定した。

2 研究の手立て

本研究では、研究主題に迫るために、「食」「運動」でそれぞれ

目指す児童像を設定し、さらに低・中・高・通級ブロックごとに研究方法としては、より深く研究するため、平成18年度は「食」、平成19年度は「運動」を中心に行なった。

〈食〉

「食べ物に関心をもち、楽しく食べる子」に迫るための手立てとして、授業研究を中心に、栄



3 研究の成果と課題

〔成果〕

○児童が栽培や調理活動を通して、自らの食生活について振り返り、身近な食材に関心をもつようになつた。

○「食」への取り組みを通して、学校だけでなく家庭でも「食」に関する話題が多くもたれるようになつてきた。

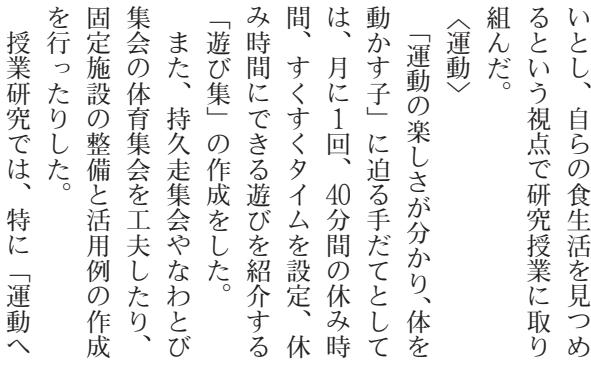
○体育科の学習において、固定施設や遊具などを使った運動に取り組んだことで、休み時間にみ時間にできる遊びを紹介する「遊び集」の作成をした。

●児童の「食と運動」の取り組みへの関心を持続させていくとともに、学校だけでなく、家庭や地域の中でも「食」と「運動」へ取り組めるよう、保護者などに働きかけていく。

○児童の「食と運動」の取り組みへの関心を持続させていくとともに、学校だけでなく、家庭や地域の中でも「食」と「運動」へ取り組めるよう、保護者などに見られた。

●児童の「食と運動」の取り組みへの関心を持続させていくとともに、学校だけでなく、家庭や地域の中でも「食」と「運動」へ取り組めるよう、保護者などに見られた。

●児童の「食と運動」の取り組みへの関心を持続させていくとともに、学校だけでなく、家庭や地域の中でも「食」と「運動」へ取り組めるよう、保護者などに見られた。



○体育科の学習において、固定施設や遊具などを使った運動に取り組んだことで、休み時間にみ時間にできる遊びを紹介する「遊び集」の作成をした。

また、持久走集会やなわとび集会の体育集会を工夫したり、固定施設の整備と活用例の作成を行つたりした。



「ふれあい かかわりあい わかりあえる子」

府中市立住吉小学校
研究主任 剣持 妙子

一 研究主題について

本校では、平成15年度より「ふれあい かかわりあい わかりあえる子」をテーマに生活科や総合的な学習の時間を通して、優しく心豊かな児童の育成を目指して研究に取り組んできた。

その成果のもと、昨年度より「言葉を通して友だちとつながりあえる子」を目指し、研究主題を引き継ぎつつ国語科の「話すこと・聞くこと」の授業研究を進めてきた。

二 授業での取り組み

指導の手立てとして

- ①明確なねらいや手立てをもつて話したり聞いたりする場面を繰り返し設定する。
- ②話すこと聞くことに関する技能を系統的に学ばせ、伝え合う力を高める。
- ③相手の気持ちに配慮しながら話したり聞いたりできるようにならなければならない。



三 授業研究でのようす

低学年では、「話し合いのすすめ方シート」や「出題カード」

などを活用し一人一人が楽しみながら話すこと・聞くことができるようにした。日常の取り組みである「日直のスピーチ」「質問タイム」などで培われた方が生きられるようにした。

高学年では、ペア学習を取り入れ話し合い活動を行った。

一人一人の話す量をより多く確保し、一つの話題についてより深く掘り下げて話し合うためである。一対一では傍観者の立場ではいられないため必然的に話す聞く力がつくと考えたのである。

ペアの組み方も工夫し、さまざま

な話し合いを行った。自分が伝えようとしていることは何かを意識する。

中学生では、目的を意識した話し合いを行った。自分を伝えようとしていることは何かを意識する。

○ 課題

- ①話すこと・聞くことの活動に
- ②児童がより積極的に取り組むことである。低学年では、役割数グループ、ゲーム形式を取り決めて話し合う、自分の言葉で意見を言う場面を多く設定する、メモを取りながら話を聞く等、多様な形態を取り入れる工夫。高学年では、「一人一組のペア学習を取り入れる工夫を重ねさせ、全員が参加できるようワークシート等での事前準備や資料集めを行った上で、話し合いに臨めるようにした。また、少人数の話し合いの場で役割や手順を決めることにより基本的な話し合いの方法を身に付けられるようにした。

○ 成果

- ①学習形態を工夫することにより、相手を意識して話したり、り豊かにするためには、深まりのある話し合いができるようにならなければならず、そのためにはねらいをはっきりさせて話し合う経験を繰り返し持たせる工夫等が必要である。
 - ②かかわりを深め人間関係をより豊かにするためには、深まりのある話し合いができるようにならなければならず、そのためにはねらいをはっきりさせて話し合う経験を繰り返し持たせる工夫等が必要である。
 - ③話すための事前の準備を効率的にさせなければならない。
 - ④「声のものさし」「話し方・聞き方のポイント」等は根気よい継続的な指導が必要である。
- これらの成果や課題を踏まえ、相手の思いをしっかりと表現できる心豊かな子の育成を目指し、今後も指導を続けていきたい。

本校では月に二回「歌声広場」という音楽集会が行われる。全校児童が体育館に集まり、今月の歌を歌う。毎朝、各クラスで朝の会の時間に練習している。朝は子どもたちのさわやかな歌声とともに一日がスタートする。担任の先生の協力は、子どもたちの歌に対する姿勢に大きな効果である。

歌声広場と合唱団

1. 音楽集会『歌声広場』

わが校の特色ある教育 NO. 19

歌声広場と合唱団 グリーンランドのヤギたち

府中市立新町小学校 教諭 稲葉 重樹
教諭 伊藤 智論



2. 合唱団活動

全校の歌声を支えているのが、新町小学校合唱団である。平成15年度から創設して、今年で5年目になる。この合唱団は課外活動で、朝の7時50分から8時20分までの30分間に活動している。

結果をもたらしている。毎日の練習でどんどん上手になり、子どもたちは歌う喜びを実感している。「歌声広場」では一年生から六年生までの全員が心と歌声を一つに合わせ、とても素敵な空間をつくりだしている。

グリーンランドの ヤギたち

1. ヤギとグリーンランド

11月・なかまTAX音楽コンクール
・学習発表会
・青少対第五地区ふれあい音楽祭

8月・府中市青少年音楽祭
7月・NHK全国学校音楽コンクール

2. 飼育活動

ヤギたちの飼育活動は、主に四年生が総合的な学習の時間の取り組みの一つとして行っている。えさや水の準備、グリーンランド内の糞の始末やゴミ拾い、飼育小屋の清掃などを担当する。また、飼育実行委員の子どもたちは、朝と放課後にヤギの健康チェックを行っている。

三年生は、新学期からは自分たちの番だと期待に胸をふくらませ、四年生は、しっかり下級生に引き継ごう、と高学年への仕方を教えていた。これまで、全校児童のふれあいの場となっている。

五年生は、新学期からは自分たちの番だと期待に胸をふくらませ、四年生は、しっかり下級生に引き継ごう、と高学年への仕方を教えていた。これまで、全校児童のふれあいの場となっている。

六年生は、新学期からは自分たちの番だと期待に胸をふくらませ、四年生は、しっかり下級生に引き継ごう、と高学年への仕方を教えていた。これまで、全校児童のふれあいの場となっている。

ねらいは、本校の歌声の推進役として歌声リーダーを育て、その子どもたちが学級や音楽の授業、そして歌声広場で活躍し、全校に美しい歌声が広がっていくことを目的にしている。このリーダーの活躍は大きく、一人一人の歌声が力となり、合唱の喜びが全校に広まっている。

◆ 今年度の活動

「アイス」の3頭が生活しており、休み時間になると子どもたちがヤギの体に触れたり、声をかけたりしている。ヤギとのふれあいを通して、命を大切にする心や思いやりの心を育てていくことを目的にしている。

三年生は、新学期からは自分たちの番だと期待に胸をふくらませ、四年生は、しっかり下級生に引き継ごう、と高学年への仕方を教えていた。これまで、全校児童のふれあいの場となっている。

五年生は、新学期からは自分たちの番だと期待に胸をふくらませ、四年生は、しっかり下級生に引き継ごう、と高学年への仕方を教えていた。これまで、全校児童のふれあいの場となっている。

六年生は、新学期からは自分たちの番だと期待に胸をふくらませ、四年生は、しっかり下級生に引き継ごう、と高学年への仕方を教えていた。これまで、全校児童のふれあいの場となっている。

本校の校舎北側には、100m²以上のスペースに「グリーンランド」という名称の雑木林がある。平成13年度より、近隣の東京農工大学の協力のもとに、このグリーンランドで様々なヤギを飼育してきた。

現在は、「ミルク」「バニラ」「アイス」の3頭が生活しており、休み時間になると子どもたちがヤギの体に触れたり、声をかけたりしている。ヤギとのふれあいを通して、命を大切にする心や思いやりの心を育てていくことを目的にしている。



2月研修会・委員会予定	日	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
	1	金	小学校英語活動推進委員会	教育センター	全体会(次年度に向けて)
	1	金	体力向上委員会	教育センター	全体会 報告書の作成に向けて
	4	月	生活指導主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項) 小・中分科会
	4	月	特別支援学級代表者会	教育センター	代表者会・分科会
	5	火	事務職員研修会	教育センター	学校教職員のメンタルヘルスについて
	12	火	特別支援教育研修会	教育センター	講演「特別支援教育の課題と今後の方向性」
	14	木	進路指導主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)
	14	木	道徳教育推進委員会	教育センター	分科会
	25	月	ICT活用推進委員会	教育センター	全体会(1年間のまとめ)
	26	火	初任者等研修会	教育センター	閉講式

学校評価についての実施及び公表等について定めた「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」が、昨年12月26日より施行された。自己評価の実施と公表については義務とされ、学校関係者評価の実施と公表については努力義務とされている。公表の方法については、今後、各学校が創意工夫し、コミュニケーションツールとして活用していくことが求められる。

先月、開催された「平成19年度学校評価推進事業ブロック別協議会」の基調講演で、学校広報についての興味深い話を伺ってきた。

講演は、「学校は十分な情報提供をしているか?」ということについてへの問い合わせから始まつた。学校は「学校評価の結

果や分析については、学校だけに掲載しているから」とか「特に保護者や地域が何か言ってくれる訳ではないから」という認識をもつてていることがある。

しかし、保護者や地域の方々からは、「まだまだ、学校で何をしているのか分からない」といった声もあり、保護者・地域アンケート等では回収率が下がったり、よく分からぬといふ項目へのマーキングが増えている現状があるといふ。

今後は、積極的な情報開示をすることにより、更なる効率化が図られるとともに、一層の効果が期待できる。



学校から積極的な情報の提供を

この度、教育委員会の所管する事務のうち、文化、生涯学習、スポーツ等の生涯学習部が所管する事務について、平成20年度に地方自治法第180条の7の規定に基づく補助執行による事務移管を行うことになった。

これは、市長部局で実施している事務と総合的、一体的に実施することにより、更なる効率化が図られるとともに、一層の効果が期待できる。

また、この組織改正は、平成20年度からの第5次府中市総合計画後期基本計画の実施に合わせ、当該計画を着実に実行するとともに、より市民ニーズに柔軟に対応する機能的なものとするものである。

これらの事務の一部移管に当たっては、学校教育から生涯学習へ繋がるライフサイクルの流れを、より一層強固にしていくことや、移管後の事務執行体制に十分配慮することなどを含め、

私が新卒で赴任した学校の隣に、昔は大名の下屋敷の庭園だったが、現在は区に移管された公園がある。暮れも押し迫ったある日の新聞に、その公園のヒマラヤザクラが満開で見頃だという記事が載り、この時期にサクラの花が、と珍しく思った◆ヒマラヤザクラはネバールが原産地で11月下旬頃から咲く。日本には留学中だった当時のネバール皇太子から贈られて入ってきた。公園のは、近所の人が寄贈したそうだ。

（指導主事 出町 桜一郎）

20年度組織改正について

事務局の窓

あとがき

私が新卒で赴任した学校の隣に、昔は大名の下屋敷の庭園だったが、現在は区に移管された公園がある。暮れも押し迫ったある日の新聞に、その公園のヒマラヤザクラが満開で見頃だという記事が載り、この時期にサクラの花が、と珍しく思った◆ヒマラヤザクラはネバールが原産地で11月下旬頃から咲く。日本には留学中だった当時のネバール皇太子から贈られて入ってきた。公園のは、近所の人が寄贈したそうだ。

◆公園に隣接していたので体育の授業や休み時間によく利用したので冬場の体育朝会には、公園をよく走らせた。回遊式庭園の面影が残り、池の周囲の小高く起伏に富んだ場所を走らせたので、クロスカントリーのようなものだった。中休みは業間体育。子どもたちは一日中体操着で過ごし、少し授業が延びると催促し校庭に飛び出す子どもたちだった◆学力低下問題が議論された人間の育成はいつの世も大きな命題である。(横山 洋)

重要手段となってくる。来年度に向けて、学校評価の結果を教育課程等に生かし、学校の創意工夫のある教育活動が展開されることを期待している。

これらのこととし、現在、実施を行った具体的な準備作業を進めている。

（指導主事 出町 桜一郎）

※時間の変更

8時50分～13時45分～

道徳授業地区公開講座

府中第六小学校 2月19日

R70

古紙ハーフ配合率70%再生紙を使用